

図書館総合展フォーラム「大学の知の発信システムの構築に向けて」について

機関リポジトリ推進委員会 主催 デジタルリポジトリ連合 共催
図書館総合展フォーラム

大学の知の発信システムの構築に向けて ～機関リポジトリの新たな可能性を探る～

平成26年11月6日(木) 10:00-17:00
パシフィコ横浜 (図書館総合展フォーラム第1会場)

参加申込はこちらから https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?page_id=27

大学の知の発信システムを構築する (10:00-12:00)

- ・大学の知の発信システムの構築に向けて 加藤 隆雄 (筑波大学)
- ・オープンアクセス・カブリオリス 三浦 太郎 (早稲田大学)
- ・技術で論文掲載率を100%にする 佐藤 理 (同志社大学)
- ・全体討議 機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ
- ・オープンアクセス関連特別トピック: SCOPUS Update サルバトーレ・メレ (CERN)

研究データへのアプローチ～エジンバラ大学図書館の実践事例を中心に (13:00-15:00)

- ・オープンサイエンスを支えるデータライブラリアン 杉内 有希 (筑波大学)
- ・研究データ管理: エジンバラ大学の経験から スチュワート・ルイス (英国エジンバラ大学)
- ・日本における研究データリポジトリへの課題 調査報告書 南山 幸之 (国立情報学研究所)

リポジトリを、もう一つ先へ: 先行事例から学ぶ (15:30-17:00)

- ・博士論文インターネット公表の現状と課題: DRP博士論文発表会開催報告 松本 希子 (広島大学)
- ・JAIRO Cloud移行の手引き 三浦 太郎 (早稲田大学)
- ・リポジトリ構築の進捗 大塚 昌彦 (信州大学)
- ・機関リポジトリ構築・運用事例報告 筑波大学 志正

※フォーラム終了後、18:00から情報交換会を開催します。



【開催趣旨】

・「大学の知の発信システムの構築に向けて」の具体化をはかるため、機関リポジトリの高度化・発展促進を目的とした**機関リポジトリ推進委員会主催、デジタルリポジトリ連合(DRF)共催の初めての研究集会**

【概要】

- ・機関リポジトリ推進委員会の活動とその進捗を周知
- ・機関リポジトリ運営に係る先端的課題である研究データの管理について国際的動向を共有
- ・国内の機関リポジトリ担当者と機関リポジトリの今後の発展の方向性について議論

セッション1: 大学の知の発信システムを構築する

- 大学の知の発信システムの構築に向けて
加藤信哉(筑波大学)
- オープンアクセス・ガラパゴス 三角太郎(千葉大学)
- 技術で論文捕捉率を100%にする 佐藤翔(同志社大学)
- 全体討議 機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループ
- オープンアクセス関連特別トピック: SCOAP³Update
サルヴァトーレ・メレ(CERN)

セッション2: 研究データへのアプローチ: エジンバラ大学図書館の実践事例を中心に

- オープンサイエンスを支えるデータライブラリアン
池内有為(筑波大学大学院)
- 研究データ管理: エジンバラ大学の経験から
スチュアート・ルイス(英国エジンバラ大学)
- 日本における研究データリポジトリへの課題・調査経過報告
南山泰之(国立極地研究所)
- 全体討議

セッション3:リポジトリを、もう一つ先に:先行事例から学ぶ

- 博士論文インターネット公表の現状と課題:DRF博士論文勉強会開催報告 松本侑子(広島大学)
- JAIRO-Cloud移行の手びき 三角太郎(千葉大学)
- リポジトリ構築の選択肢 大園岳雄(香川大学)
- **【公募】**機関リポジトリ構築・運用事例報告
 - 機関リポジトリの構築戦略について 山下大輔(西南学院大学)
 - 神戸大学リポジトリ"Kernel"のコンテンツ収集戦略:①博士論文②OA誌掲載論文の収集 小村愛美(神戸大学)

大学の知の発信システムの 構築に向けて

加藤 信哉

筑波大学附属図書館副館長

連携・協力推進会議 機関リポジトリ推進委員会委員長

skato@tulips.tsukuba.ac.jp

機関リポジトリの現状と課題

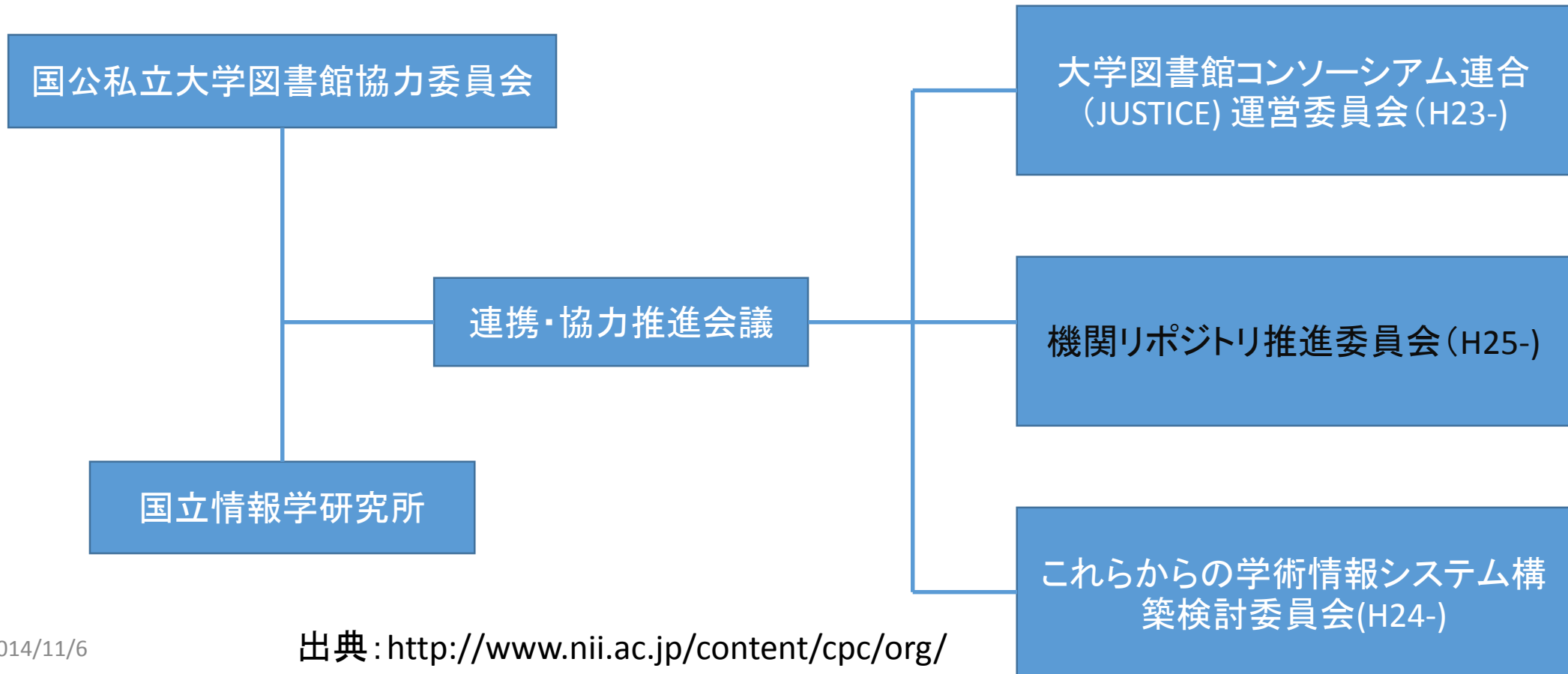
【現状】2014.11.5

- 公開数:366, 公開機関数:476 → 実質的に世界第1位
- 本文付き公開コンテンツ総数:139万件
- アクセス件数:1億257万件, ダウンロード件数:7,438万件
- JAIRO-Cloudによる構築機関数:228

【課題】

- 先進的な機能と国際的な総合運用性とを兼ね備えたプラットフォームの提供
- サブジェクトリポジトリの強化
- オープンアクセスについての理念や制度化の検討
- 研究業績の評価に対して機関リポジトリが担う役割の検討
- オープンアクセスを基調とした図書館活動を担う人材の育成や機関を超えた連携・支援活動の推進
- 博士学位論文のインターネット公表の義務化
- 新しいコンテンツ(例:研究データ)の収集

機関リポジトリ推進委員会：位置付け



機関リポジトリ推進委員会：目的

- 「機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築」に関する事項を企画・立案し、学術情報の円滑な流通及び発信力の強化にかかる活動を推進
- 「学術情報の確保と発信に関する人材の交流と育成」および「学術情報の確保と発信に関する国際連携の推進」について、機関リポジトリを通じた大学の知の発信システムの構築に関連する活動を推進

出典：https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?page_id=24#_href_38

「大学の知の発信システムの構築に向けて」

2013年12月13日 機関リポジトリ推進委員会

- 機関リポジトリ推進委員会のミッション・ステートメント

学術情報流通に関する現状認識と将来展望に基づき、重点課題を定め、機関リポジトリの一層の推進を通じてこれらの解決に取り組むことを宣言した文書

- 基調(将来展望)

機関リポジトリが、大学の教育研究活動のあらゆる成果の蓄積と徹底的なオープンアクセス化を担うことにより、インターネット環境下における情報インフラとなること、教育研究戦略に必要な情報を大学に提供し、それによって学術情報流通システムを変革すること

出典：https://ir-suishin.repo.nii.ac.jp/?action=common_download_main&upload_id=22

4つの重点的戦略課題

①オープンアクセス方針の策定と展開

- 各機関の公表義務化, 研究インフラ整備, コンテンツの多様化等の戦略に資するオープンアクセスのガイドラインの作成
- ゴールドオープンアクセスの進展を踏まえた種々のレベルにおけるオープンアクセス方針の策定への貢献

②将来の機関リポジトリ基盤の高度化

- アカデミック・クラウド環境における機関リポジトリ基盤の高度化と機関リポジトリの管理・運営環境の整備

③コンテンツの充実と活用

- 学術機関リポジトリ構築連携支援事業の成果の活用と機関リポジトリに蓄積されているコンテンツの評価
- 多くの利用が見込まれる分野等における未整備のコンテンツの充実と教育研究での多面的な活用の促進

④研修・人材養成

- 研究データ等の文献に留まらないコンテンツを扱い, 機関リポジトリの高度化や国際コミュニティと連携協力を行う人材養成等のための修等の実施

機関リポジトリ推進委員会 ワーキンググループ

- 「大学の知の発信システムの構築に向けて」の「当面の行動計画」の内容に沿って、具体的な活動内容を立案し実行する作業グループ

①コンテンツWG

- 機関リポジトリ登録コンテンツの拡大に関すること
- コンテンツの拡大には、コンテンツの登録の促進とコンテンツの多様化の双方を含む

②国際連携WG

- 国外の機関リポジトリ関係機関・団体との連携に関すること

③技術WG

- 機関リポジトリのシステム基盤の高度化に関わること

平成26年度活動計画

WG	項目
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none">・コンテンツ構築ノウハウの継承(特にJ[AIRO-]C[loud]新規参入館への注入)・博[士学位]論電子公開制度の実績評価と課題抽出・解決・オープンアクセス方針も視野に入れた学内認知度向上・研究データの取り扱いに向けた調査・ELS里親さがし・図書館学サブジェクトリポジトリ・図書館総合展イベント(11/6)
国際連携	<ul style="list-style-type: none">・図書館総合展イベント(11/6)・国際会議動向調査・海外動向調査・海外との情報共有
技術	<ul style="list-style-type: none">・機関リポジトリへの当該機関所属著者の文献データの自動収集・SCPJの今後の運用方針の検討・Researchmapと機関リポジトリとの連携・機関リポジトリログの標準処理・解析結果表示システムの構築・機関リポジトリコンテンツの活用方法の模索

平成26年度 機関リポジトリ推進委員会ワーキンググループテーマ

